

第8回 球磨川下流域環境デザイン検討委員会

球磨川・新萩原橋周辺地区かわまちづくりについて



平成27年3月10日

八代河川国道事務所

球磨川・新萩原橋周辺地区かわまちづくりにおける取り組み

【球磨川・新萩原橋周辺地区かわまちづくり協議会 設立総会】

平成27年1月20日、やつしろハーモニーホールにて、球磨川・新萩原橋周辺地区かわまちづくり協議会の設立総会を開催した。協議会は、かわまちづくりに関連する各種団体および関係行政機関から構成されており、当日は、設立趣意書・規約に同意がなされ、球磨川・新萩原橋周辺地区かわまちづくり（案）の内容についても、概ねその方向性について一致した。

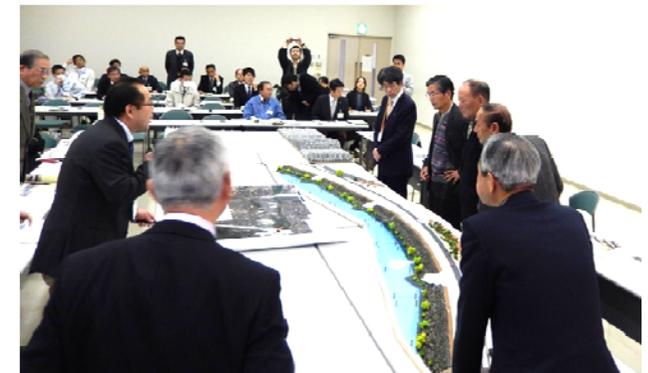
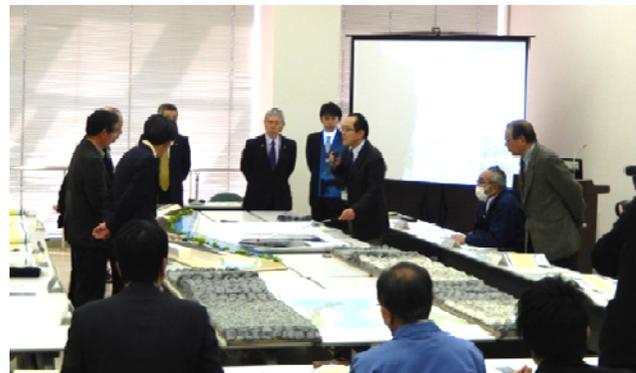
今後は、現在の構想（案）の内容と利活用・維持管理の方法について、さらに具体的に議論していくこととしている。
なお、かわまちづくり支援制度を活用することで、手続きを進めている。

球磨川・新萩原橋周辺地区かわまちづくり協議会委員会の構成



永原会長(右)と神園副会長(左)

番号	区分	所属	役職	氏名	備考
1	地域住民	まちづくり太田郷協議会	会長	福田 信一	
2		高田まちづくり協議会	会長	早瀬 洋志	
3		まちづくり協議会みやじ	会長	畑中 正人	
4	関係団体	熊本県立八代清流高等学校	ポータル顧問	本木 理恵	
5		八代市立高田小学校	校長	中原 修身	
6		八代市商工会議所	副会頭	神園 喜八郎	副会長
7		八代よかところ宣伝隊	専務理事・事務局長	上野 留美	
8		球磨川漁業協同組合	副組合長	小早川 宗一	
9		八代史談会	会長	松山 丈三	
10	行政	国土交通省八代河川国道事務所	副所長	荒木 和幸	
11		熊本県南広域本部 振興課	課長	木山 晋介	
12		八代市	副市長	永原 辰秋	会長



球磨川・新萩原橋周辺地区かわまちづくり協議会の様子

球磨川・新萩原橋周辺地区かわまちづくりにおける取り組み

【八代市における球磨川周辺の観光拠点等】

- ・八代市の球磨川周辺には、国指定史跡の3城跡（八代城跡、麦島城跡、古麓城跡）、九州三大祭りである妙見祭の舞台である八代神社（妙見宮）、藩政時代に築かれた萩原堤・水はね群など、文化的な資源が数多く存在している。
- ・球磨川の水辺は、ウォーキングやジョギング、地元のボート部のレガッタの練習場として日常的に利用されている。
- ・球磨川河川緑地を中心に、四季折々のイベントが開催されている。



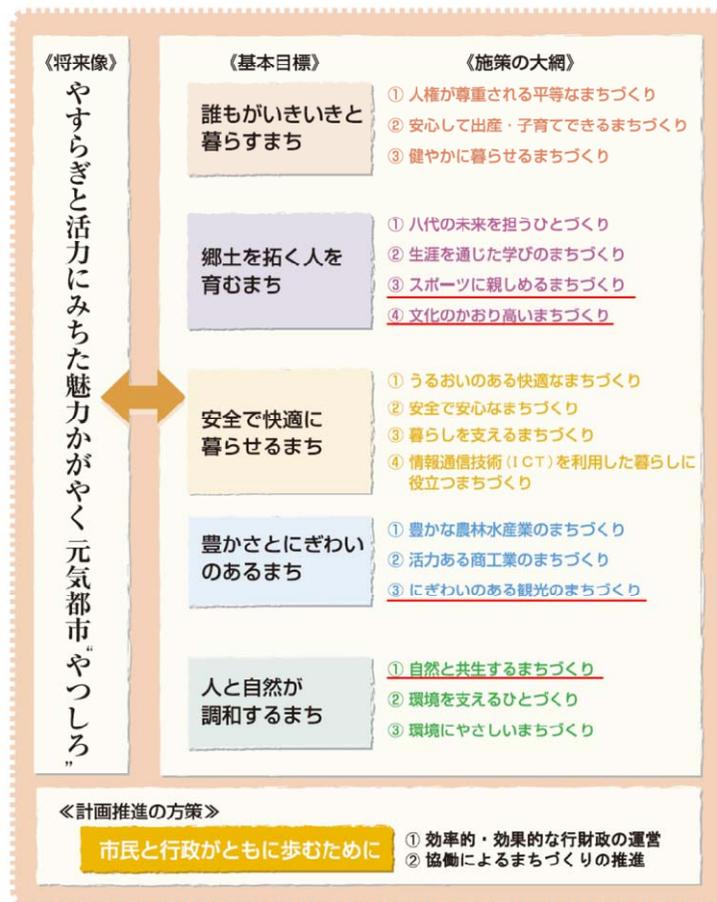
球磨川・新萩原橋周辺地区かわまちづくりにおける取り組み

【八代市の関連計画】

八代市の関連計画「八代市総合計画」

《まちづくりの理念》

お互いを尊重しあう平和な社会のもと、個性と魅力があふれた心豊かなひとづくりをすすめて、人と自然が共生し、安全で快適に暮らせる、誰もが住みたい、住み続けたいと思える元気なまちづくりをすすめます。



八代市の関連計画「八代市都市計画マスタープラン」

「八代市都市計画マスタープラン」において、球磨川河川緑地をはじめ県南運動公園、東部山麓や南部山麓の丘陵地などを自然レクリエーション拠点と位置づけるとともに、ネットワーク化させて市民の水や緑や歴史に親しむレクリエーション空間の形成を図り、個性と魅力ある景観の形成を図る構想が掲げられている。

◇ 目指すべき都市の姿 ◇

① 骨格がしっかりとしたコンパクトな都市

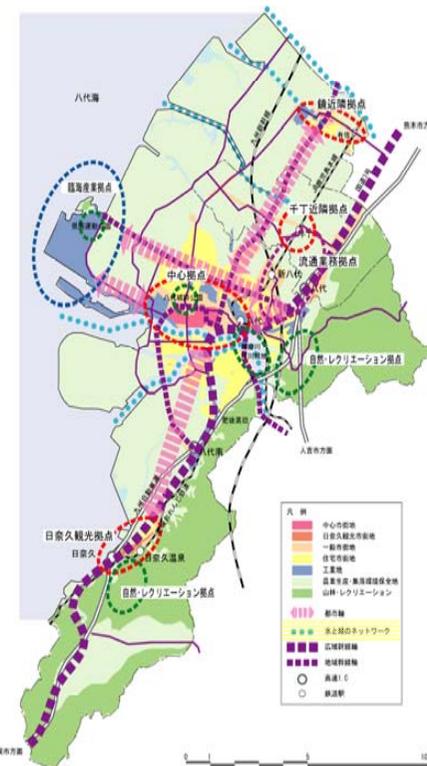
- インターチェンジや鉄道駅、及び幹線道路、球磨川などの河川により形成される骨格と、都市的な土地利用とが整合し、だれもがわかりやすい市街地
- 骨格を利用した公共交通の利便性が高く、だれもが自由に移動できるまち
- 農業生産地と市街地が明確に分かれたコンパクトな市街地
- 住まう、働く、憩うなど都市活動が調和して、円滑に行なわれるまち

② 個性と魅力ある景観にあふれた都市

- 賑わい、活力、魅力、個性を印象づけることができる中心があるまち
- 自然や歴史など八代固有の資源を大切にしまち
- 美しい景観、快適なまちなみ、質の高い居住空間などに包まれたまち

③ 市民の主体的な活動によるきめ細かい都市づくりにより形成された都市

- 民の主体的な都市づくり活動が行なわれるまち
- 高齢者や子供たちが大切にされるコミュニティがあるまち



球磨川・新萩原橋周辺地区かわまちづくりにおける取り組み

【地域住民の河川整備に対する思い】

新萩原橋周辺の水域

ボート競技や舟遊びのための空間

- 水辺に近づきやすく利用しやすい階段護岸、舟の発着場を整備してほしい。
- レガッタの直線コースができるとうい。
- 花火大会等のイベント時に屋形船や観光船を出すとうい。
- くま川祭りのイカダ競争が復活するとうい。

渡町と球磨川河川緑地

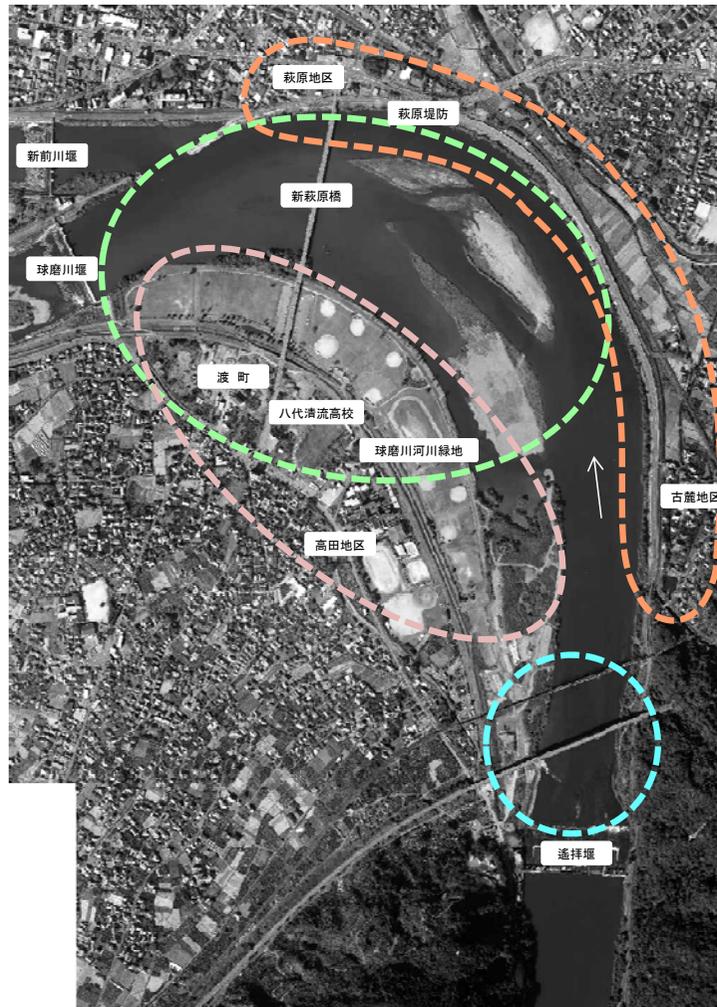
色々な利用に対応した高水敷と水辺

- 子供達が安心して泳げる自然の河川プールがほしい。
- 水辺で魚釣りができるようにしてほしい。
- 子供達がよるこぶ川遊びをしたい。
- コンクリート護岸ではなく、自然な護岸にしてほしい。
- 舟の係留場所がほしい。

遙拝堰下流

新たな水辺空間への期待

- 砂遊びや水切り、環境学習などができる場がほしい。
- 左岸側は右岸に比べ流れが速く、子供達だけで遊ぶには危険。
- 左岸側に駐車場を整備してほしい。



萩原堤周辺

地域の歴史と自然の交差点

- 河畔林や根固めの空隙は魚類の生息環境として良い。
- 花火がよく見えるように竹や柳の間伐をしてほしい。
- 水辺で魚釣りができるようにしてほしい。
- 堤防は緩傾斜堤防にしてほしい。
- 治水上、利用上安全な堤防にしてほしい。(ガードレール、スロープ等)
- 堤防川裏にかつての並木(桜、松等)がほしい。
- 花火大会の観覧席を整備してほしい。
- 石刳ねの風景があった方がよい。
- 現在の、妙見祭の神幸行列ルートは途中参道が狭く危険なため、萩原堤防をとるルートにすれば塩屋神社～八代駅～妙見宮までを安全に通れる。
- 新駅を萩原堤防の裏側につくれば、イベント時の利用がふえる。
- 八代駅前で切れている緑の回廊を、球磨川までつなぐ。
- 古麓の史跡や石はねを見に、人が来るようになるとうい。

その他

- 中洲の土砂をとってほしい。
- 中洲を公園として利用できないか。

球磨川・新萩原橋周辺地区かわまちづくりにおける取り組み

球磨川・新萩原橋周辺の魅力・資源

- ・ 球磨川・新萩原橋周辺には、萩原堤防や水はねに代表される歴史的建造物が多く存在している。
- ・ 球磨川河川緑地は、普段から多くの市民により散策やジョギング等により利用されており、大型イベントの会場としても利用されている。
- ・ 交通拠点となるJR八代駅や八代インターチェンジが近くにあり、市外からの観光客を呼び込みやすい箇所である。
- ・ 国土交通省により、利活用や景観、歴史的背景等を考慮した河川整備が現在進められている。
- ・ 地元住民からは、球磨川の景観や利活用に対する強い思いがある。



既存の魅力・資源を活かし、地域発展に寄与するまちづくり

- 各拠点を結ぶウォーキングの整備やソフト対策
- 1年をとおして市外から観光客を呼び込める、施設整備や拠点の魅力アップ
- 「健康」、「体験」、「食」、「学習」など様々な魅力を散りばめた新たな観光拠点
- 多くの観光客を呼び込むために民間のアイデアを活用

球磨川におけるかわまちづくり

球磨川・新萩原橋周辺地区かわまちづくりにおける取り組み

【球磨川・新萩原橋周辺地区かわまちづくりの方向性（案）】

八代市におけるかわまちづくりは、球磨川とその周辺にある地域の財産とも言うべき歴史的遺構や名所の位置を考慮し「球磨川・新萩原橋周辺地区かわまちづくり」と名称を決定し、その範囲は、遙拝堰から球磨川堰までの区間とした。

「にぎわい（活力）」「自然・歴史の調和（共生）」「人をはぐくむ（利用）」を目標に、新萩原橋周辺において新たな水辺空間の創出を目指す。



対象範囲

「にぎわい」・「風格」・「恵み」が球磨川で結びつく水辺空間の創出

「にぎわい」

■人が集まる拠点

新萩原橋周辺を訪れた人をいざない、地域の催しやスポーツ(カヌー、レガッタ等水面利用を含む)などが開催できるようにするとともに、地域の活力となる利活用と、それを支える維持管理を展開する。

■水辺への近づきやすさ

水際まで安全に近づけるようにすることで、球磨川の水面利用を促進させる。

■街と球磨川とのつながり

街と球磨川とのつながりを向上させる。

「風格」

■歴史的土木遺産の再現

歴史的遺構を加味した河川景観を創出する。

「恵み」

■自然の恵みを活かした多自然川づくり

自然が魅力の球磨川の姿を後世に残すため、多自然川づくりによる河岸整備を行う。

■球磨川の自然再生と学習の場の融合

球磨川の自然環境等の環境学習の場として利用できる場を創出する。

「結び」

■歴史施設等へのアクセス

萩原エリアに点在する歴史資源や文化財等を市民が容易に鑑賞できるようアクセス性を高めるためのネットワークを形成する。

■回遊性・連続性

八代市の関連計画との結びつきを高め、新萩原橋周辺の魅力・資源を楽しめるよう、ウォーキング・サイクリングでの回遊性・連続性を高める。

これらの実現のために、水辺空間整備と利活用・維持管理に取り組む。